

ビワ「なつたより」のカラーチャートによる 収穫適期予測法

ビワ「なつたより」は、成熟時の着色が他品種と比べて薄いため収穫適期の判断が難しく、取り遅れによる青果率の低下が問題でした。食味を重視したカラーチャート値による収穫適期判断基準は既に作成してありますので、それを利用して、未成熟果実の果皮色の变化から成熟時期を予測する方法を開発しました。

☆ 技術の概要

1. ビワ「なつたより」の着色進度は、カラーチャートで果実の赤道部を測定します。未成熟果実に見られる緑斑症（図1）は年度により発生程度が異なりますが、着色が進むほど症状が軽くなり、カラーチャート値7～8でほぼ消滅します。
2. 収穫適期までの期間は、果皮色がカラーチャート値1の時は約10日、2の時は約7日、5の時は約4日と予測できます（表1）。また、果実の収穫適期幅は、カラーチャート値7～8までの約4日間です。この時の落果は、ほぼありませんが、果実の形質（小果梗、果実重）にかかわらず、カラーチャート値9以上で現れます。
3. 収穫直前の1果房内3果の果皮色差は、カラーチャート値で約1.2です。



図1 緑斑症(左)とカラーチャート(右)

☆ 活用面での留意点

1. 品種により成熟時の着色が異なりますので、「なつたより」のみに活用できる技術です。
2. 房収穫するときには、房内全果実がカラーチャート値7を基準にすると他の果実が過熟になりますので、房内で最も着色の進んだ果実のカラーチャート値が8をこえない時点で収穫することが必要です。
2. 詳細については、長崎県農林技術開発センター果樹・茶研究部門（電話：0957-55-8740）にお問い合わせください。

表1 カラーチャート値による収穫適期までの期間と適期幅（日）

年	カラーチャート値						適期幅 7～8
	1	2	3	4	5	6	
2013	10.7	6.9	6.3	5.3	4.0	1.8	4.1
2014	10.2	7.5	6.6	5.7	4.3	1.4	4.7
平均	10.4	7.2	6.4	5.5	4.2	1.6	4.4

^z 2013～2014年の計147果調査結果

（農研機構果樹茶業研究部門 企画管理部 果樹連携調整役 和田雅人）